

NO. 311

じゅんあい

平成25（2013）年2月1日

証人



「あなたがたの上に^{せいれい}聖霊が^{くだ}降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果て^はに至るまで、わたしの^{しょうにん}証人となる。」
(使徒言行録 1:8)

ここでいう証人とは殉教者と同じ表現であり初代教会におけるキリスト者のレベルの高さをはっきりと示す一語といえよう。

それ故、福音の故にいかなる迫害を受けることがあろうとも、ひるむ事なく信仰に立ち宣教に身を投じるのであった。

イエスの御名によって生まれつきの足なえが癒され、大センセーションとなり沢山の人がキリストの群れに加わった。

すると「議員や他の者たちは、ペトロとヨハネの大胆な態度を見、しかも二人が無学な普通の人であることを知って驚き、また、イエスと一緒にいた者であるということも分かった。

しかし、足をいやしていただいた人がそばに立っているのを見ては、ひと言も言い返せなかった。

そこで、二人に議場を去るように命じてから、相談して、言った。『あの者たちをどうしたらよいだらう。彼らが行った目覚ましいしるしは、エルサレムに住むすべての人に知れ渡っており、それを否定することはできない。しかし、このことがこれ以上民衆の間に広まらないように、今後あの名によってだれにも話すなと脅しておこう。』

そして、二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した。」 (使徒言行録 4 : 13~18)

まさしく信仰の自由をさまたげる圧力であった。

「しかし、ペトロとヨハネは答えた。『神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。

わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです。』(使徒言行録 4 : 19、20) と、ひるむことなく命をかけて見た事、体験したことを証してゆくのであった。

そして祈るのである。「『主よ、あなたは天と地と海と、そして、そこにあるすべてのものを造られた方です。あなたの僕であり、また、わたしたちの父であるダビデの口を通し、あなたは聖霊によってこうお告げになりました。

“なぜ、異邦人^{いほうじん}は騒ぎ立ち^{さわ}、諸国^{しょこく}の民^{たみ}はむなしいことを企^{くわだ}てるのか。地上の王^{おう}たちはこぞって立ち上がり、指導者^{しゆど}たちは団結^{だんけつ}して、主^{しゆ}とそのメシア^{めしか}に逆^{さか}らう。” 事実、この都^{みやこ}でヘロデとポンティオ・ピラトは、異邦人^{いほうじん}やイスラエルの民^{たみ}と一緒に^{いっしょ}になって、あなたが油^{あぶら}を注^{そそ}がれた聖^{せい}なる僕^{めが}イエスに逆^{さか}らいました。そして、実現^{じつげん}するようと御手^みと御心^{みこころ}によってあらかじめ定め^{さだめ}られていたことを、すべて行^なったのです。主^{しゆ}よ、今こそ彼ら^{かれら}の脅^{おそ}しに目^めを留^{とど}め、あなたの僕^{めが}たちが、思い切^{おも}って大胆^{だたん}に御言^{ごごん}言葉を語^{かた}ることができるようにしてください。

どうか、御手^みを伸^のべし聖^{せい}なる僕^{めが}イエスの名^なによって、病^{びやう}気がいやされ、しるしと不思議^{ふしぎ}な業^{わざ}が行^なわれるようにしてください。』

祈^{いのち}りが終わると、一同^{いっとう}の集^あまっていた場所^{ばしょ}が揺^ゆれ動き、皆^{みな}、聖^{せい}霊^{れい}に満^みたされて、大胆^{だたん}に神^{かみ}の言^{ごん}言葉を語^{かた}りだした。」

(使徒 4 : 24~31)



ハレルヤ！ かくしてイエスによって選ばれた弟子^{でし}らしく主^{しゆ}の御期^{ごき}待^{たい}にこたえる彼ら^{かれら}であった。たとえば次のような不思議^{ふしぎ}も繰^{くり}り広^{ひろ}げられた。

「使徒^{しと}たちの手^てによって、多くのしるしと不思議^{ふしぎ}な業^{わざ}とが民衆^{たんか}の間で行^なわれた。一同^{いっとう}は心^{こころ}を一つにしてソロモン^{かいろう}の回廊^{かいろう}に集^あまっていたが、ほかの者^{もの}はだれ一人、あえて仲間^{なかま}に加わろうとはしなかった。

しかし、民衆^{たんか}は彼ら^{かれら}を称賛^{しょうさん}していた。そして、多くの男女^{おとこ}が主^{しゆ}を信じ、その数^{かず}はますます増^まえていった。人々^{ひとびと}は病人^{びやうじん}を大通^{おほど}りに運^はび出し、担架^{たんか}や床^{とこ}に寝^ねかせた。ペトロが通りかかるとき、せめてその影^{かげ}だけでも病人^{びやうじん}のだれかにかかるとした。

また、エルサレム付近^{ぐんしゅう}の町^{まち}からも、群衆^{ぐんしゅう}が病人^{びやうじん}や汚^{けが}れた霊^{れい}に悩^{なや}まされている人々^{ひとびと}を連れて集^あまって来たが、一人残^{ひとり}らずいやしてもらった。」

(使徒言行録 5 : 12~16)

迫害^{はくがい}の魔^まの手^ては厳^{きび}しく「そこで、大祭司^{だいじし}とその仲間^{なかま}のサドカイ派^{さどかい}の人々^{ひとびと}は皆^{みな}立ち上がり、ねたみに燃^もえて、使徒^{しと}たちを捕^{とら}えて公^{こう}の牢^{らう}に入れ

た。ところが、夜中に主の天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、『行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい』と言った。これを聞いた使徒たちは、夜明けごろ境内に入って教え始めた。一方、大祭司とその仲間が集まり、最高法院、すなわちイスラエルの子らの長老会全体を招集し、使徒たちを引き出すために、人を牢に差し向けた。

下役たちが行ってみると、使徒たちは牢にいなかった。彼らは戻って来て報告した。『牢にはしっかり鍵がかかっていたうえに、戸の前には番兵が立っていました。ところが、開けてみると、中にはだれもいませんでした。』この報告を聞いた神殿守衛長と祭司長たちは、どうなることかと、使徒たちのことで思い惑った。

そのとき、人が来て、『御覧ください。あなたがたが牢に入れた者たちが、境内にいて民衆に教えています』と告げた。そこで、守衛長は下役を率いて出て行き、使徒たちを引き立てて来た。しかし、民衆に石を投げつけられるのを恐れて、手荒なことはしなかった。

彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。『あの名によって教えてはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。』

ペトロとほかの使徒たちは答えた。『人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木にかけて殺したイエスを復活させられました。』

神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。

わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます。』

(使徒言行録 5:17～32)

まさに迫害、されどそれに打ち勝つての勝利ある神の業・・・これが

交差する使徒言行録であった。そして最初の殉教者がおこる。

「さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業とするしを民衆の間で行っていた。ところが、キレネとアレクサンドリアの出身で、いわゆる『解放された奴隷の会堂』に属する人々が、またキリキア洲とアジア州出身の人々などのある者たちが立ち上がり、ステファノと議論した。しかし、彼が知恵と“霊”とによって語るの、齒が立たなかった。そこで、彼らは人々を唆して、『わたしたちは、あの男がモーセと神を冒瀆する言葉を吐くのを聞いた』と言わせた。また、民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。『この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。“あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。”』最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。」

(使徒言行録 6 : 8~15)

「かたくなで、心と耳に割礼を受けていない人たち、あなたがたは、いつも聖霊に逆らっています。あなたがたの先祖が逆らったように、あなたがたもそうしているのです。いったい、あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者が、一人でもいたでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを予言した人々を殺しました。そして今や、あなたがたがその方を裏切る者、殺す者となった。天使たちを通して律法を受けた者なのに、それを守りませんでした。」 (使徒言行録 7 : 51~53)

「人々はこれを聞いて激しく怒り、ステファノに向かって齒ぎしりした。ステファノは聖霊に満たされ、天を見つめ、神の栄光と神の右に立つ

ておられるイエスとを見て、『天が開いて、人の子が神の右に立っておられるのが見える』と言った。人々は大声で叫びながら耳を手でふさぎ、ステファノ目がけて一斉に襲いかかり、都の外に引きずり出して石を投げ始めた。証人たちは、自分の着ている物をサウロという若者の足もとに置いた。人々が石を投げつけている間、ステファノは主に呼びかけて、『主イエスよ、わたしの霊をお受けください』と言った。それから、ひざまずいて、『主よ、この罪を彼らに負わせないでください』と大声で叫んだ。ステファノはこう言って、眠りについた。』

(使徒言行録 7 : 54~60)

それは、キリストの十字架の上における祈りと全く同じ赦しを求める祈りであった。

一粒の麦として死んでいったステファノ、されどやがて芽を出し、パウロという大使徒を生む陰の力となったことを否定できない。

キリストの証人とは、まことに殉教者との意味であり、ステファノがその第一号となった。

“死に至るまで忠実であれ。そうすればあなたに命の冠を授けよう。”



使徒言行録：イエスの死後、聖霊の降臨によってエルサレムに使徒たちを中心とする教会が生まれ、使徒たちが聖霊に導かれて福音を広め、教会を確立して、帝都ローマに至った経過を記した文章。28章から成る初代教会発展の歴史書。

殉愛キリスト教会

牧師：山縣 實

〒920-0814 石川県金沢市鳴和町タ 210 Tel・Fax 076-251-2247

E-mail : jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp

URL : <http://www.ne.jp/asahi/jun-ai/christ-church/>